

## 用語解説

## 第4章

## ○【人・農地プラン】

農業者同士の話し合いによって、地域の中心的な役割を果たす農業者(中心経営体)や地域農業の将来を明確化するもの。

## ○【エコファーマー】

土づくりと化学肥料・化学農薬の使用の低減を一体的に行う農業生産を計画し、知事の認定を受けた農業者。

## ○【有機農業】

有機農業推進法により、①科学的に合成された肥料及び農薬を使用しない、②遺伝子組換え技術を利用しない、③農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減する農業。

## ○【有機農産物】

①周辺から使用禁止資材が飛来、流入しないように措置を講じている、②は種又は植付け前2年以上化学肥料や化学合成農薬を使用しない、③組換えDNA技術の利用や放射線照射を行わないなど「有機農産物の日本農林規格」に従って生産された農産物。

## ○【GAP（農業生産工程管理）】

Good Agricultural Practices。農産物（食品）の安全を確保し、より良い農業経営を実現するために、農業生産において、食品安全だけでなく、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程

管理の取組。

## ○【認定農業者】

農業者が農業経営基盤強化促進基本構想に示された農業経営の目標に向けて、自らの創意工夫に基づき、経営の改善を進めようとする計画を市町村等が認定し、これらの認定を受けた農業者に対して重点的に支援措置を講じようとするもの。

## ○【半農半X】

農業を営みながら他の仕事にも携わり、双方で生活に必要な所得を確保する仕組み。

## ○【施設園芸】

ガラス室やビニールハウスを利用して野菜などの園芸作物（野菜類・花き・果樹）を栽培することで、天候や外気温の影響を減らして比較的安定した生産ができる農業形態。

## ○【6次産業】

農業者（1次産業）が、農畜産物の生産だけでなく、製造・加工（2次産業）やサービス業・販売（3次産業）にも取り組むことで、生産物の価値をさらに高め、農業所得の向上を目指す取組み。1次産業の1×2次産業の2×3次産業の3のかけ算の6を意味している。

## ○【農地中間管理事業】

農地中間管理機構が農業経営のリタイヤ、規模縮小など農地の受け手を探している農家から農地を借り受け、農業経営の効率化や規模拡大を考えている受け手（担い手農家等）に貸し付ける制度。

○【ソーシャル・フォレストリー】

森林の管理を住民の参加により行い、地域経済の安定と自然・生物多様性の保全を両立する手法。

○【主伐】

更新または更新準備のために行う伐採もしくは複数の樹冠層を有する森林における上層木の全面的な伐採。

○【再造林】

人工林を伐採した跡地に再び苗木を植えて人工林をつくること。

○【元気ビジネス応援隊】

工業技術・技能などを有する者が、中小企業の技術向上と経営安定を指導し、企業の健全な発展に資することを目的として制度化した組織。

○【粗付加価値額】

生産活動によって新たに付け加えられた価値。

粗付加価値額＝製造品出荷額等－（消費税を除く内国消費税額＋推計消費税額）－原材料使用額等

○【第二創業】

企業が既存事業とは異なる新事業・新分野に進出することで経営刷新を図ること。

○【フェーズ】

局面、側面

○【AI (Artificial Intelligence)】

人間の使う自然言語を理解したり、論理的な推論を行ったり、経験から学習したりするコンピュータプログラムなどの技術や概念のこと。人工知能。

○【MaaS (Mobility as a Service)】

複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービスであり、観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となるもの。

○【学習指導要領】

全国どこの学校でも一定の水準が保てるよう、文部科学省が定めている教育課程(カリキュラム)の基準。およそ10年に1度、改訂される。

○【ICT (Information and Communication Technology)】

情報処理や通信に関連する技術、産業、設備、サービスなどの総称。

○【有効求人倍率】

有効求職者数に対する有効求人数の割合で、雇用動向を示す重要指標のひとつ。

○【ジョブカフェ】

若者の就職に関する相談や職業紹介などをワンストップで行う施設。

○【メンタルヘルス】

心の健康のこと。損なわれそうになった心の健康の修復を目的とした場面で使われることが多い。

## ○【産学官民連携】

企業、大学・研究機関、行政、市民の四者が連携する仕組み。

### ○【サテライトオフィス】

企業等の本社や本部から離れた所に設置された事務所などの活動拠点。本社等を中心としたとき衛星（サテライト）のように見て取れることから名づけられた。ワーク・ライフ・バランスの推進や地方の優秀な人材確保につながる。

### ○【創業支援事業計画】

地域の創業を促進させるため、市区町村が創業支援等事業者と連携して策定する計画。

### ○【コワーキング】

事務所、会議室、打ち合わせスペースなどを共有しながら独立した仕事を行う共働ワークスタイル。

### ○【自営型テレワーカー】

注文者から委託を受け、情報通信機器を活用して主として自宅又は自宅に準じた自ら選択した場所において、成果物の作成又は役務の提供を行う就労形態の者。

### ○【暑中信州寒晒蕎麦】

江戸時代に信州高遠藩が将軍家へ献上したと伝えられる、小寒から立春まで冷たい水に浸水させたのち、寒風にさらして乾かす当時の製法を再現した蕎麦。

### ○【2次交通】

複数の交通機関等を使用する場合の、2種類目の交通機関のこと。

### ○【ジオタクシー】

JRバス高遠駅から南アルプス戸台口「仙流荘」、分杭峠シャトルバス発着所「栗沢駐車場」へ直行するタクシー。

### ○【シビックプライド】

「市民の／都市の」という意味の「Civic」と、「誇り」を意味する「Pride」から成り立つ言葉であり、市民の地域への誇りと愛着を表す言葉。

### ○【インバウンド】

外国人が訪れる旅行のこと。訪日外国人旅行。

### ○【リデザイン】

再設計。完成したものを再びデザインし直すこと。

### ○【マルチデバイス化】

PCやスマートフォン、タブレットといった複数のデバイスから、ネット上のサービスやコンテンツを同じように利用できる環境とすること。

### ○【シティプロモーション】

内外に地域の魅力を発信することでイメージを高め、ヒト・モノ・カネを呼び込み、地域経済の活性化につなげる活動。

### ○【WEBアクセシビリティ】

主に高齢者や障害者など、身体に障害や不自由のある利用者に配慮したホームページなどのウェブサービスを提供し、ホームページなどにアクセスした誰もが容易に情報を共有できる状態にあることをいう。

○【地域おこし協力隊】

都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を異動し、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこし支援や、農林水産業への従事、住民支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組。隊員は各自治体の委嘱を受け、任期はおおむね1年から3年。

○【マリッジハラスメント】

独身者に対し、結婚しないことについて必要以上に問い詰めたり、結婚しないことを責めたりする嫌がらせ行為。

○【シングルハラスメント】

独身者に対し、独身者であることを理由に精神的な苦痛を与える行為や、既婚者に比べて不平等な役目を押し付けられることなどが該当する。

○【二地域居住】

主な生活拠点とは別の特定の地域に生活拠点（ホテル等も含む。）を設ける暮らし方のこと。

○【交流人口】

観光等でその地域を訪れる人々のこと。

○【関係人口】

移住した「定住人口」でもなく、観光に

来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わる人々を指す言葉

○【移住婚】

都市部から地方への移住を希望する独身者に結婚相手と移住先を同時にサポートする取り組み

○【定住自立圏構想】

近隣市町村が協定を締結し、連携・協力しながら圏域に必要な生活機能等を確保するとともに、定住人口の確保と地域の活性化を図る取組。